

2016年2月5日
株式会社 リクルートマーケティングパートナーズ株式会社リクルートマーケティングパートナーズ・一般社団法人全国高等学校PTA連合会合同調査
第7回 高校生と保護者の進路に関する意識調査2015

子どもの進学時に 保護者が最重要と考える情報は「入試制度」 前回の「進学費用」を上回る

株式会社リクルートマーケティングパートナーズ（本社：東京都中央区 代表取締役社長 山口 文洋）と一般社団法人全国高等学校PTA連合会（所在地：東京都千代田区 会長 佐野 元彦）は、高校2年生とその保護者に対し、進路に関する考え方やコミュニケーションの実態を探る調査を実施いたしました。ここに集計結果がまとまりましたので、ご報告いたします。

【進路選択について】

- 保護者と進路について「話す」高校生は79%。…P.3
 - ・男女別にみると、女子の方が男子より8.0ポイント高い。
- 保護者との対話頻度は、高校生の進路選択時の気持ちと関連性が高い。…P.3
 - ・進路選択を考える時の気持ちは、「楽しい」22.3%、「不安」72.2%。
 - ・進路対話頻度別にみると、保護者と「話す」方が「話さない」高校生と比べて「楽しい」のスコアが9.5ポイント高い。
- 進学にあたり保護者が重要だと考える情報は、「入試制度」「進学費用」「将来の職業との関連」。…P.4-5
 - ・進学にあたり保護者が最も重要だと考える情報は、1位「入試制度」57.0%、2位「進学費用」56.6%。
 - ・保護者が特に重要だと考える情報の上位5項目の取得状況をみると、いずれも「不足している・計」が半数を超え、「取得している・計」を上回った。
 - ・進路選択のアドバイスが「難しい」と感じる保護者は70.8%。
理由のトップは「入試制度をはじめ最新の進路情報を知らないから」（47.5%）。

【将来必要な力と現在持っている力のギャップ】

- 「社会で働くにあたって必要とされる」が子どもに不足している能力は、「主体性」「実行力」「発信力」。…P.6
 - ・「社会で働くにあたって必要とされる能力」を身につける有効な場のトップ3は、すべて教科外活動（部活動・校外活動・文化祭や体育祭）で 教科の学習（教科の時間・総合的な学習の時間）より高いスコアとなった。

【これからの社会について】

- 保護者と高校生の“将来社会の展望”は前回・前々回調査から連続して上昇傾向。…P.7
 - ・保護者「好ましい」 2011年（16.7%）＜2013年（26.4%）＜2015年（27.8%）
 - ・高校生「好ましい」 2011年（26.5%）＜2013年（41.9%）＜2015年（48.1%）

【就いてほしい職業・就きたい職業】

- 保護者の「就いてほしい職業」のトップは「公務員」27%。…P.8
- 高校生の「就きたい職業」のトップは「教師」9%。

【奨学金制度について】

- 保護者・高校生ともに、奨学金制度の認知トップ3は種類（給付/貸与など）についてで高かったが、申込方法や利用条件などの具体的な制度については認知が進んでいない。…P.9
- 貸与型奨学金制度を「利用してほしい・したい」と回答した保護者は52%、高校生は41%。

※出版・印刷物へデータを転載する際には、“「高校生と保護者の進路に関する意識調査2015」

株式会社リクルートマーケティングパートナーズ・一般社団法人全国高等学校PTA連合会合同調査”と明記ください。

リクルートマーケティングパートナーズではこれからも、ひとりひとりにあった「まだ、ここにいる、出会い。」を届けることを目指していきます。

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社リクルートマーケティングパートナーズ 広報担当
https://www.recruit-mp.co.jp/support/press_inquiry/

【調査概要】

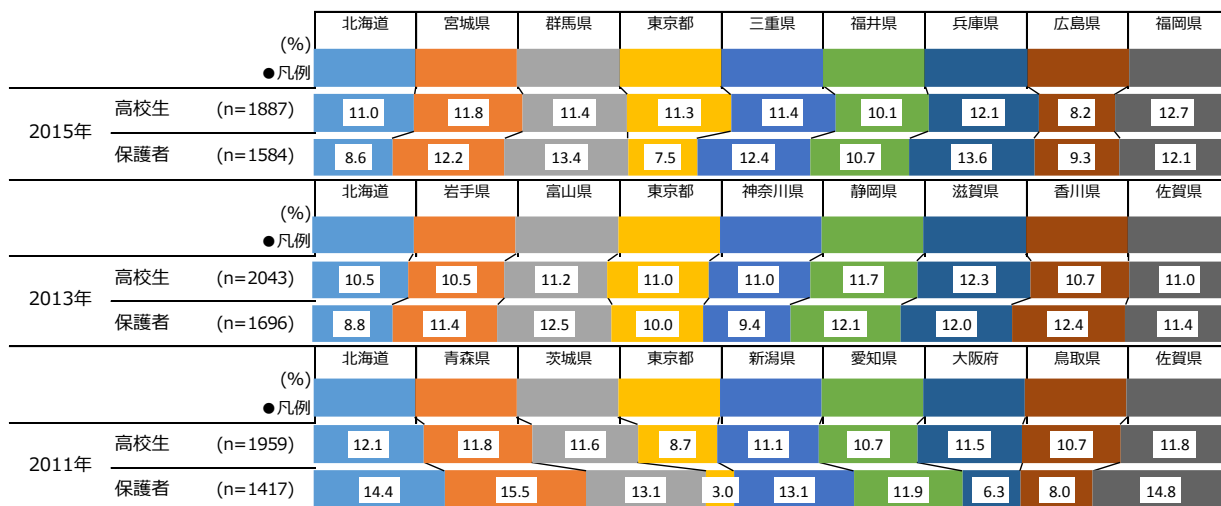
- ・ 調査目的：高校生を持つ保護者とその子どもにおけるコミュニケーションの実態と進路観の現状を把握する
- ・ 調査主管：一般社団法人全国高等学校PTA連合会、株式会社リクルートマーケティングパートナーズ
- ・ 調査対象：高校2年生とその保護者
一般社団法人全国高等学校PTA連合会より依頼した9都道府県の公立高校26校
※各都道府県：3校（※広島県のみ2校）
※各校：2年生2クラスの生徒とその保護者

2015年	北海道 宮城 群馬 東京 三重 福井 兵庫 広島 福岡
2013年	北海道 岩手 富山 東京 神奈川 静岡 滋賀 香川 佐賀
2011年	北海道 青森 茨城 東京 新潟 愛知 大阪 鳥取 佐賀

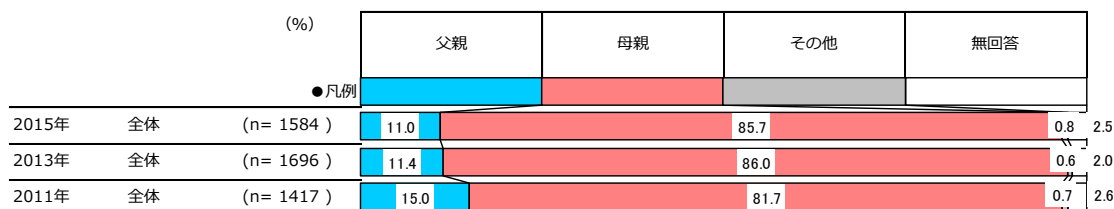
 ※調査実施校所在地は毎年変わるため、時系列データは参考
- ・ 調査期間：2015年9月24日（木）～2015年10月28日（水）回収終了
- ・ 調査方法：（1）高校生 ホームルーム時にアンケート実施
（2）保護者 高校生から保護者へアンケートを手渡しで依頼、実施
クラスごと学級担任が高校生・保護者アンケートをまとめ、学校ごとに回収
- ・ 有効回収数：（1）高校生 1,887名 ※全問無回答7名を除く
（2）保護者 1,584名 ※全問無回答10名を除く

【回答者プロフィール】

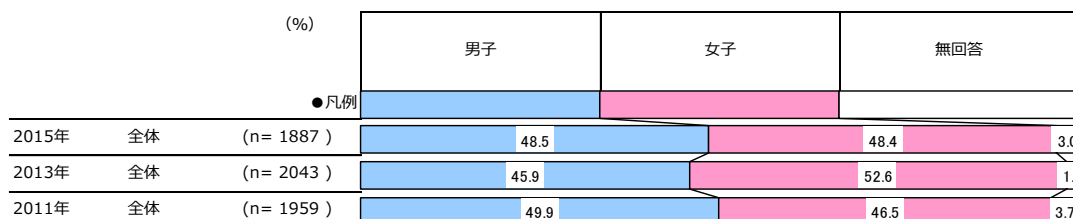
【保護者・高校生】時系列 調査対象校所在地都道府県 （全体）



【保護者】時系列 続柄 （全体／単一回答）



【高校生】時系列 性別 （全体／単一回答）



【高校生：進路選択についてのコミュニケーション】

■保護者と進路について「話す」高校生は79%。

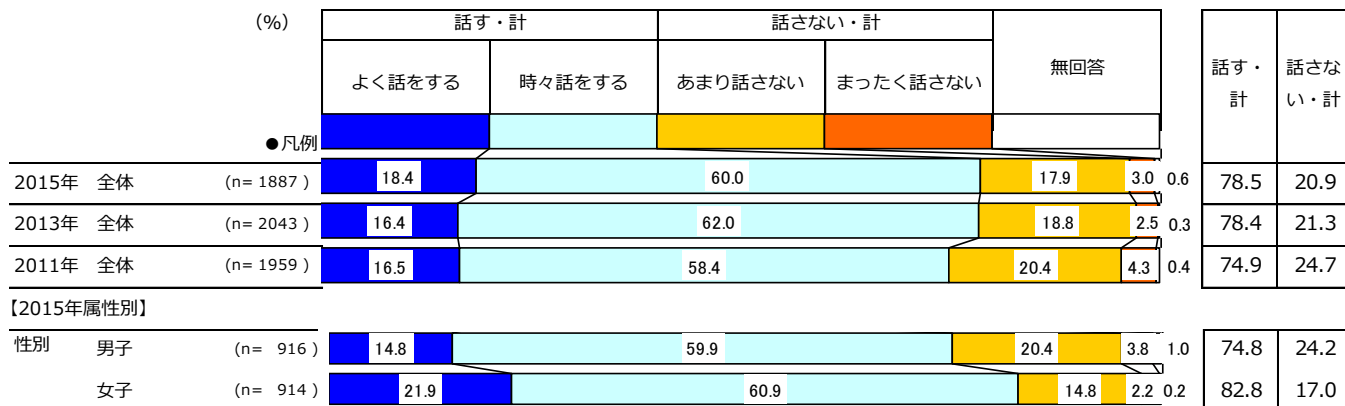
・男女別にみると、女子の方が男子より8.0ポイント高い。

■進路選択を考える時の気持ちは、「楽しい」22%、「不安」72%。

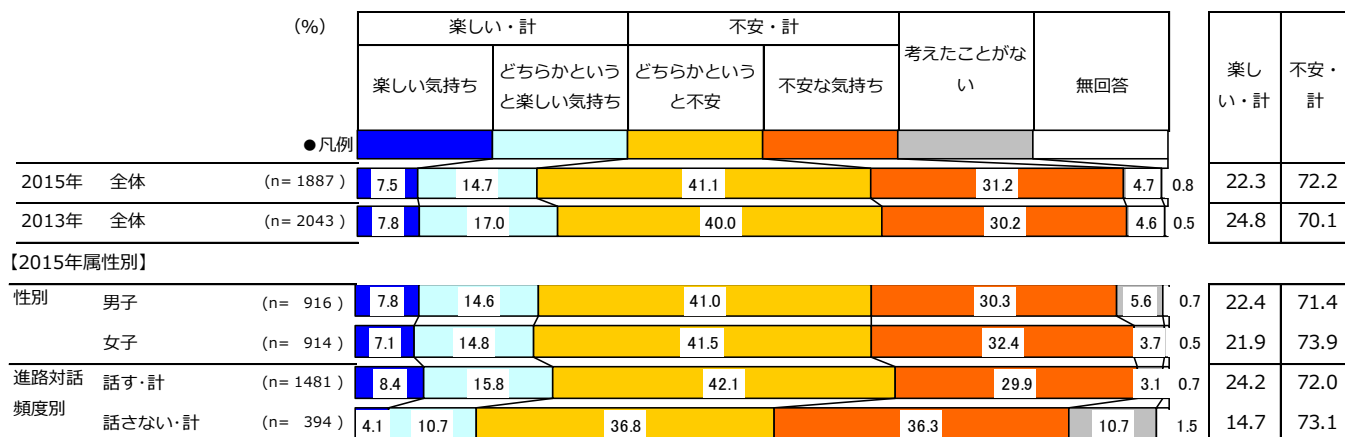
・進路対話頻度別にみると、保護者と「話す」方が「話さない」高校生と比べて「楽しい」のスコアが9.5ポイント高い。

保護者との対話頻度は、高校生の進路選択時の気持ちと関連性が高い。

【高校生】時系列 進路についての話を保護者としているか（全体／単一回答）



【高校生】時系列 進路を考える時、どんな気持ちになるか（全体／単一回答）



楽しい気持ち：

「未来の為に今、がんばっているの、自分の力がどのくらいのものか、それが通用するかが楽しみになる。」
「自分の人生を自分で設計できて楽しい。」 「自分の好きな学問が学べるので楽しい気持ち。」
「学力、金銭面、家族など心配な障害は多々あるが、自分の学びたいことを求める事を楽しめていると感じる気持ち。」

不安な気持ち：

「ちゃんと就職できるのかが不安」「自分はしっかりと社会に出て生きて行けるのか。」
「行きたい大学・学科が漠然としていて、うまく選べるか不安な気持ち。」
「進学するとしたら、お金を借りないといけないので、そのお金をきちんと返せるのか」

【保護者：進路選択についてのコミュニケーション】

■進路選択のアドバイスが「難しい」と感じる保護者は71%。

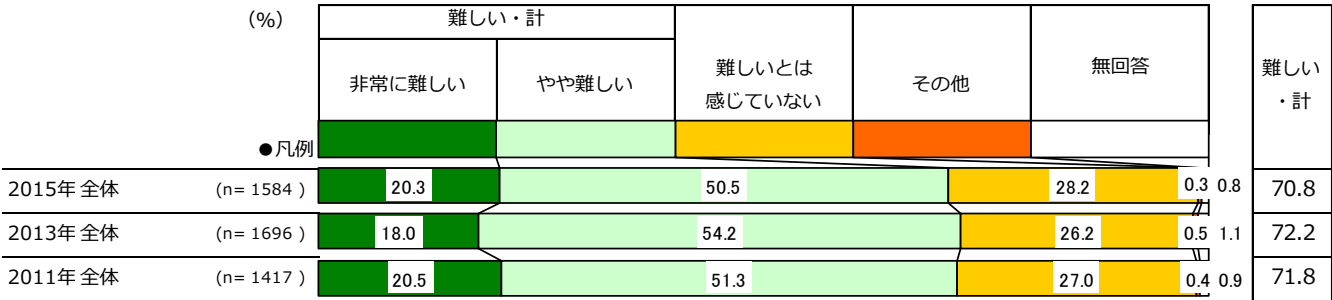
■アドバイスが難しい理由をみると、調査開始以来初めて（※）、
「入試制度をはじめ最新の進路情報を知らないから」がトップとなった。

- 1位「入試制度をはじめ最新の進路情報を知らないから」（47.5%）
- 2位「社会がどのように変わっていくのか予測がつかないから」（45.9%）
- 3位「家庭の経済的な理由で、子どもの進路の選択肢を狭めざるを得ないから」（28.4%）

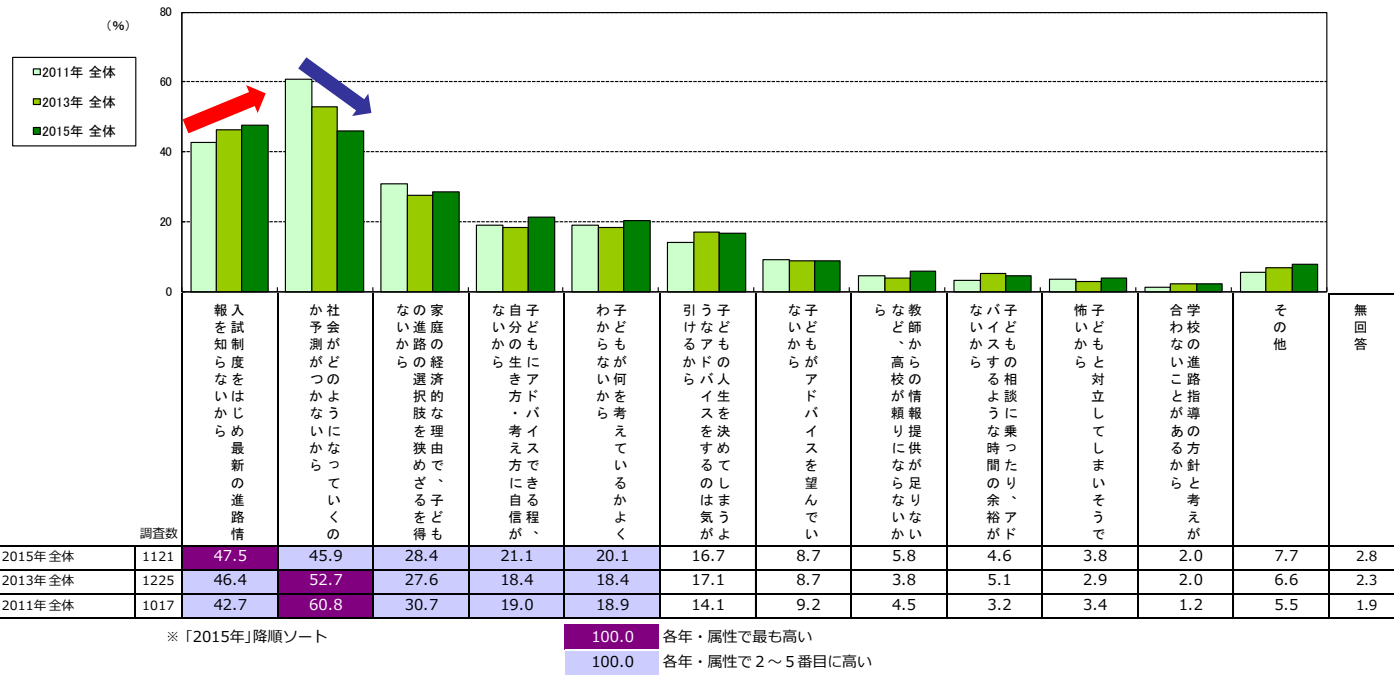
※調査を開始した2003年以降、2005・2007・2009・2011・2013年の
トップは「社会がどのように変わっていくのか予測がつかないから」

- ・トップの「入試制度をはじめ最新の進路情報を知らない」は
前々回調査（2011年）より3回連続増加している。

【保護者】時系列 進路選択について子どもにアドバイスすることは難しいか（全体／単一回答）



【保護者】時系列 進路選択についてアドバイスを難しいと感じる要因（アドバイスが「難しい」回答者／複数回答）



難しいと感じる要因：

「最新の入試制度と自分の感覚のギャップ、子供の希望・実力・本気度、等考えると簡単に意見できない。」

「親の世代とは入試制度がちがうから。」

「自分自身（両親共）大学受験していないため。」

「アドバイスのつもりが、子供はおしつけと捉える場合があるので難しい。」

「子供が将来、どんな職業に就きたいか、決まっていないため。」

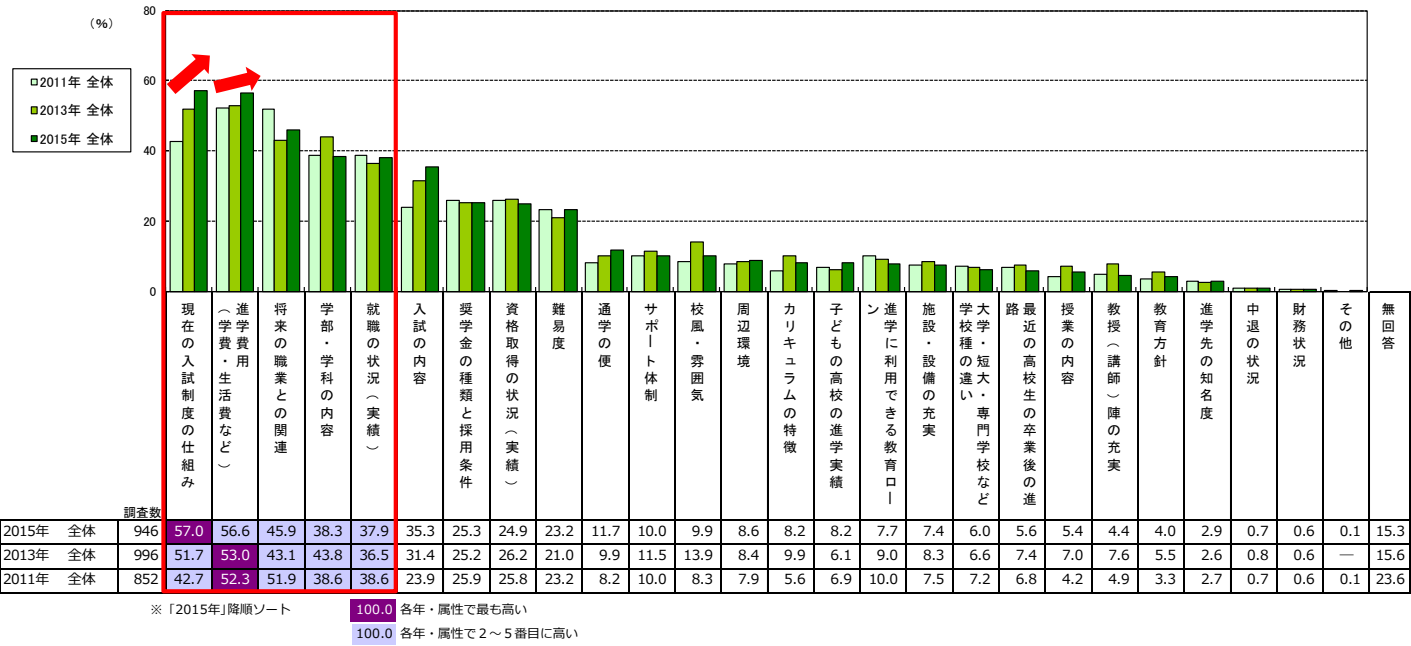
【保護者：進学にあたって重要だと思う情報】

■保護者が最も重要だと考える情報は「現在の入試制度の仕組み」57%。
前回・前々回の「進学費用」を押さえて1位となった。

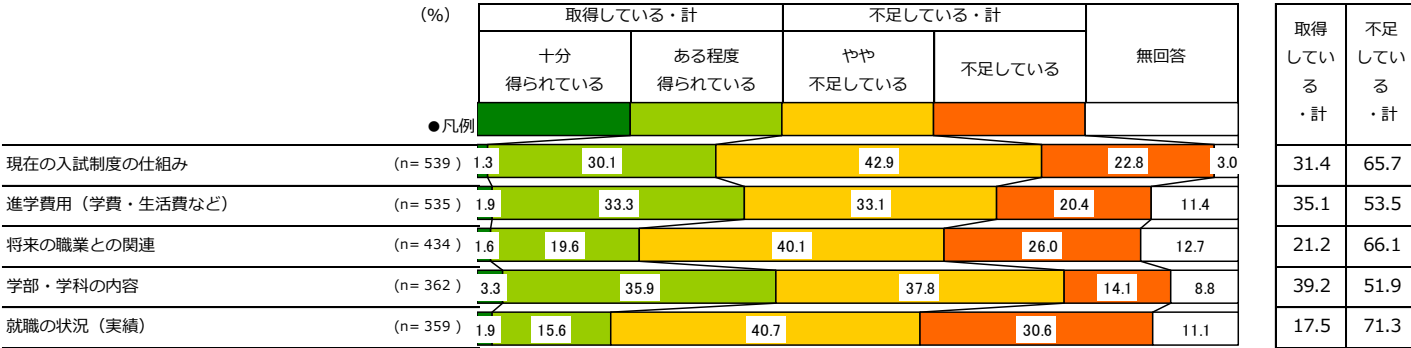
- 1位「現在の入試制度の仕組み」（57.0%）
- 2位「進学費用」（56.6%）
- 3位「将来の職業との関連」（45.9%）
- 4位「学部・学科の内容」（38.3%）
- 5位「就職の状況」（37.9%）

■保護者が特に重要だと考える情報の上位5項目の取得状況をみると、
いずれも「不足している・計」が半数を超え、「取得している・計」を上回った。

【保護者】時系列 特に重要な情報（進学希望者（※1）／5項目まで複数回答） ※1 進学希望者；大学進学/短大進学/専門学校進学計



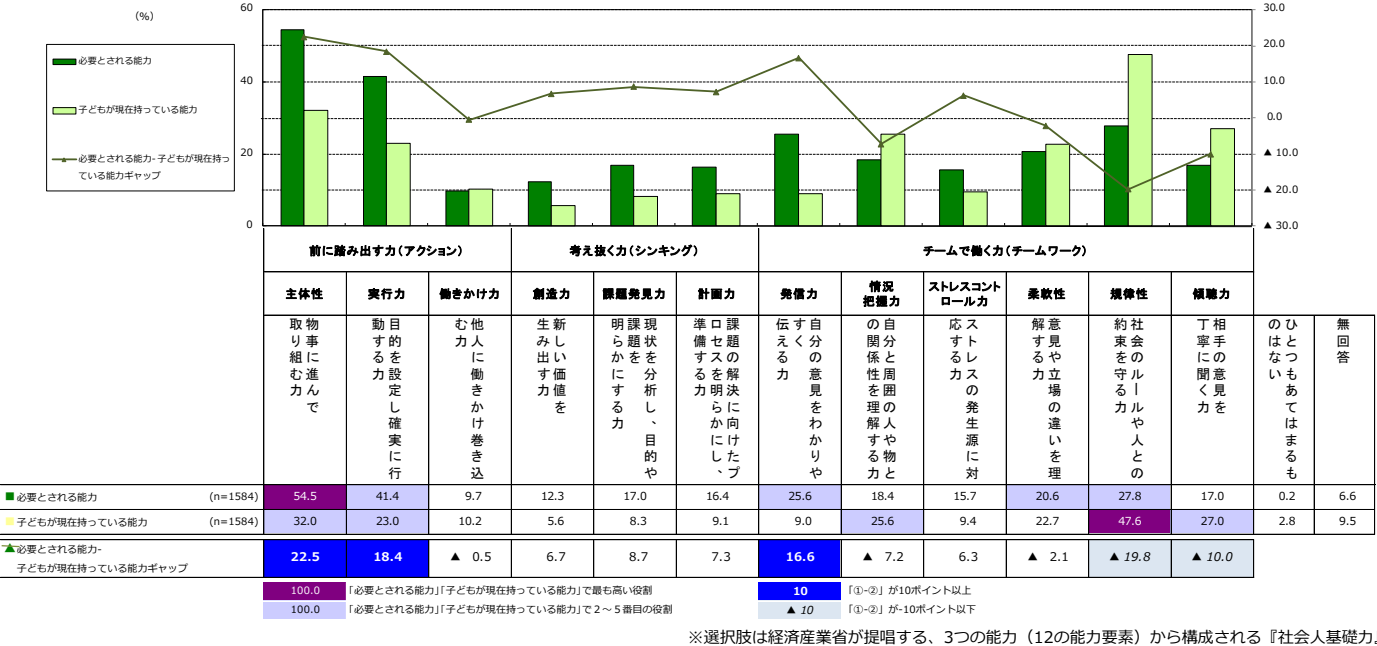
【保護者】特に重要な情報 上位5項目の取得状況
（進学希望者（※1）、かつ各項目を「特に重要な進学情報」と回答した者のみ／各単一回答）



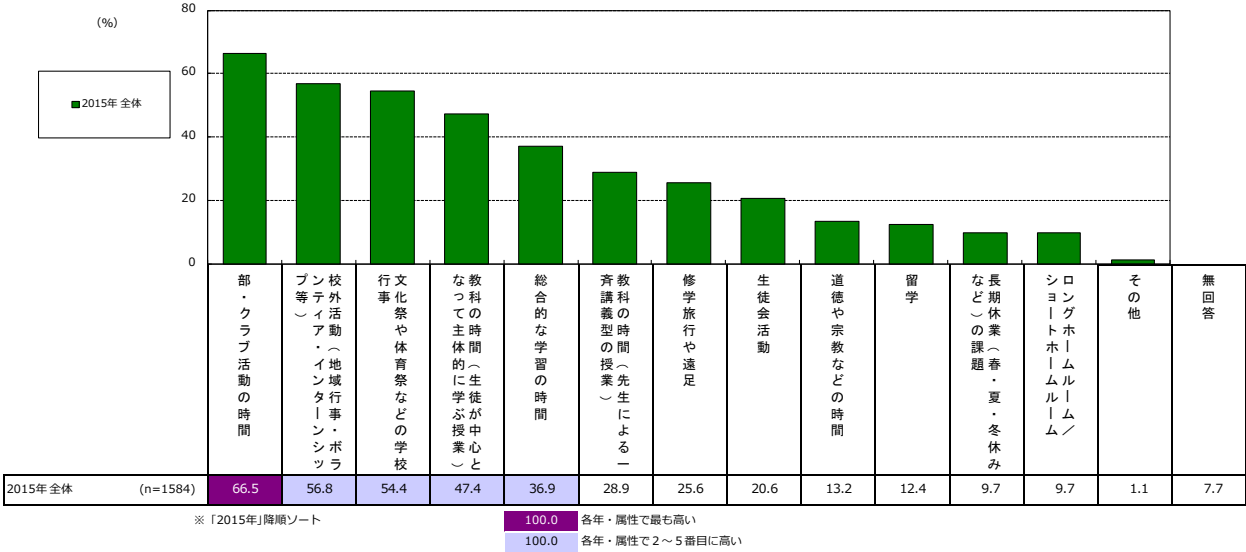
【保護者】 将来必要な力と現在持っている力のギャップ

- 「社会で働くにあたって必要とされる」が子どもに不足している能力は、「主体性」「実行力」「発信力」。
一方、子どもが現在持っている力は、「規律性」「傾聴力」。
- 「社会で働くにあたって必要とされる能力」を身につける有効な場のトップ3は、すべて教科外活動（部活動・校外活動・文化祭や体育祭）で教科の学習（教科の時間・総合的な学習の時間）より高いスコアとなった。
1位「部・クラブ活動」（66.5%）
2位「校外活動」（56.8%）
3位「文化祭や体育祭などの学校行事」（54.4%）
4位「教科の時間」（47.4%）
5位「総合的な学習の時間」（36.9%）

【保護者】「社会で働くにあたって必要とされる能力」と「子どもが現在持っている能力」（全体/各3項目まで複数回答）



【保護者】 必要な能力を身につけるのに有効な場（全体/複数回答）



【保護者・高校生：これからの社会は好ましいか】

■保護者の28%、高校生の48%が、これからの社会は「好ましい」と回答。

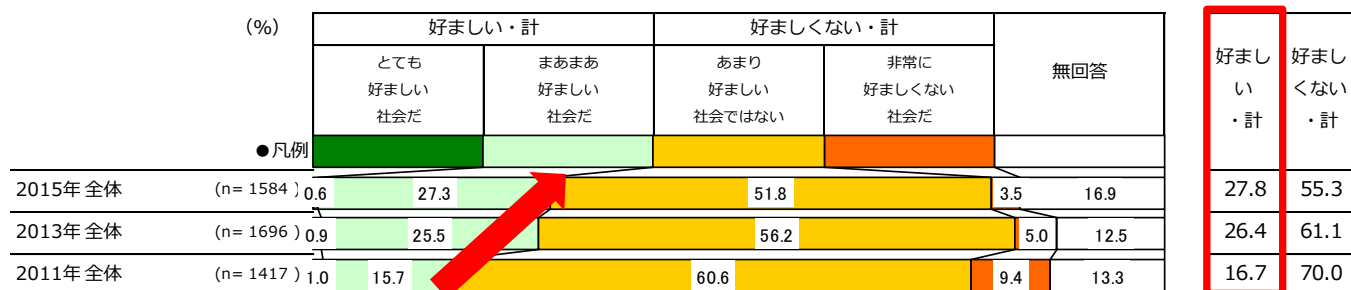
高校生は「好ましい」が「好ましくない」を上回った。

- ・保護者 「好ましい」 (27.8%) < 「好ましくない」 (55.3%)
- ・高校生 「好ましい」 (48.1%) > 「好ましくない」 (44.3%)

■保護者・高校生ともに「好ましい」と回答している割合は、前々回調査（2011年）より大幅に増加。

- ・保護者「好ましい」 2011年 (16.7%) < 2013年 (26.4%) < 2015年 (27.8%)
- ・高校生「好ましい」 2011年 (26.5%) < 2013年 (41.9%) < 2015年 (48.1%)

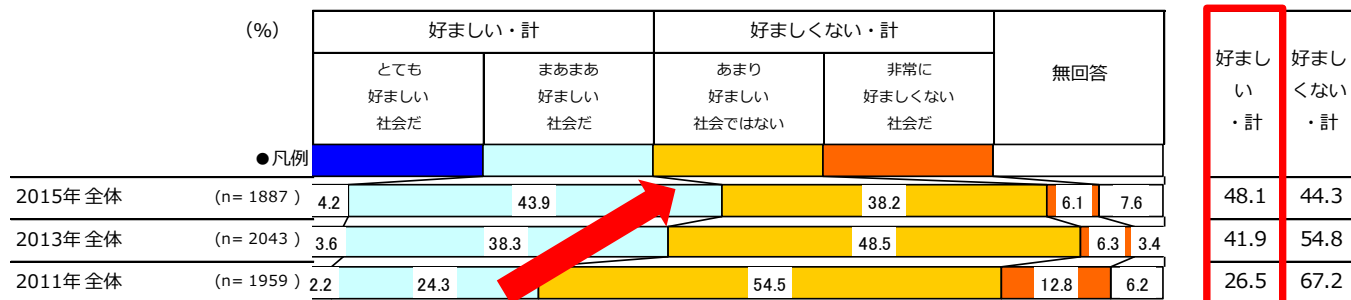
【保護者】時系列 これからの社会は子どもにとって好ましい社会か（全体／単一回答）



好ましい：「今は不況であるが、オリンピックが決まり、徐々に景気回復の兆しが見えてきたので。」
「子どもたちが就職する際には、景気が上向きになっていそうだから。」
「女性でも勉強したければできるし、働きたければ働ける時代になりつつある。私たちより選択肢が多い社会である。」

好ましくない：「先の見えない世の中だから。」
「国の財政、少子化、年金問題、増税、原発やエネルギー問題等、問題が多すぎます。」
「景気回復のニュースを見るが、一部のみであり、実感できない。就職先もいまだに狭き門であることを考えると、自分の働きたい職場でのびのび仕事ができるとは思えない。」

【高校生】時系列 未来展望：これからの社会はあなたにとって好ましいか（全体／単一回答）



好ましい：「アベノミクスの影響があると思うから。」
「オリンピックが決まったので、経済的にもよくなると思うから。」
「これからグローバル社会になって、外国の人々となつなができるので楽しいと思う。」

好ましくない：「景気が上向きになってきたとは言え、まだまだ不況だと思うから。」
「消費税が上がるし、この先、年金などももらえなくなってしまうかもしれない。若者の雇用も更に減りそう。」
「私たちは最後のゆとり世代で、後から優秀なゆとりでない世代が入ってくるから。」

【保護者・高校生：就いてほしい（就きたい）職業】

■保護者の「就いてほしい職業」のトップは「公務員」27%。
・子どもの性別：男子 1位 「公務員」 女子 1位 「看護師」

■高校生の「就きたい職業」のトップは「教師」9%。
・男子 1位 「公務員」 女子 1位 「看護師」

【保護者】 就いてほしい職業(就いてほしい職業があると回答したうち、有効記入があったもの/自由記入をコーディング)

全体 (n=212)			子どもの性別；男子 (n=100)			子どもの性別；女子 (n=111)		
順位	職業	%	順位	職業	%	順位	職業	%
1	公務員	27.4	1	公務員	40.0	1	看護師	23.4
2	看護師	12.7	2	医療関連全般	10.0	2	公務員	16.2
3	医療関連全般	9.4	3	教師	9.0	3	医療関連全般	9.0
4	教師	8.5	4	理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・リハビリ	8.0	4	教師	8.1
5	理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・リハビリ	5.2	5	医師・歯科医師・獣医	5.0	5	保育士・幼稚園教諭・幼児保育関連	6.3
6	放射線技師・臨床検査技師	4.7		放射線技師・臨床検査技師			薬剤師	
7	薬剤師	4.2	7	製造業（自動車・造船など）	4.0	7	放射線技師・臨床検査技師	4.5
8	保育士・幼稚園教諭・幼児保育関連	3.3	8	社会福祉士・介護福祉士・福祉関連	3.0	8	管理栄養士・栄養士	3.6
	医師・歯科医師・獣医		10	技術者・研究者	2.0		社会福祉士・介護福祉士・福祉関連	
	社会福祉士・介護福祉士・福祉関連			弁護士・裁判官・法律関係			会社員	
				会計士・税理士・行政書士				
				薬剤師				
				建築士・建築関連				
				会社員				

その職業に就いてほしい理由：

- 公務員： 「安定した収入が得られ、長く勤務できる。」
「安定している。結婚、出産したあと、職場復帰しやすい。」
- 看護師： 「就職に困らない事、社会に貢献でき、子供にも向いていると思ったから。女性が自立でき、産後も困らないと思うから。」
「人と接する仕事であり、長く安定した職業だと思うので。」
- 医療関連全般： 「国家資格を身につければ、全国どこでも働く事ができる。」
「需要がある為。」
「資格を持っていて欲しい。進路の話しをしていて、子供の希望や子供の性格等考えると、合うのではないかなと思う。」

【高校生】 就きたい職業(就きたい職業がある/単一回答)

全体 (n=992)			男子 (n=407)			女子 (n=565)		
順位	職業	%	順位	職業	%	順位	職業	%
1	教師	8.6	1	公務員	15.5	1	看護師	11.5
2	公務員	8.3	2	教師	11.3	2	保育士・幼稚園教諭・幼児保育関連	9.6
3	看護師	7.3	3	製造業（自動車・造船など）		3	教師	6.7
4	製造業（自動車・造船など）	6.5	4	建築士・建築関連	9.3	4	俳優・アイドル・ミュージシャン・声優・芸能関連	4.6
5	保育士・幼稚園教諭・幼児保育関連	5.9	5	理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・リハビリ	4.4	5	薬剤師	4.4
6	建築士・建築関連	4.3		エンジニア・プログラマー・IT関連			管理栄養士・栄養士	
7	理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・リハビリ	3.3	7	技術者・研究者	3.9	7	美容師・理容師・ヘアメイクアーティスト・エステティシャン・美容関連	4.2
	薬剤師		8	画家・イラストレーター・アニメーター・CGデザイナー・芸術・ゲーム関連	3.2	8	公務員	3.2
	俳優・アイドル・ミュージシャン・声優・芸能関連		9	調理師・シェフ・パティシエ・フード関連	2.7		空港職員・航空関連	
10	美容師・理容師・ヘアメイクアーティスト・エステティシャン・美容関連	3.2		薬剤師			ファッションデザイナー・スタイリスト・アパレル	
			10	美容師・理容師・ヘアメイクアーティスト・エステティシャン・美容関連	2.0			
				会社員				

その職業に就きたい理由：

- 教師： 「ジュニアインターンシップでの経験でより多くの子どもの笑顔を見たいと思ったから。」（男子）
「元々、人と関わる仕事がしたくて、中学校の時の先生達を見て、将来この人達みたいになりたいと思ったから。」（女子）
- 公務員： 「安定していて、社会の役に立てる。」（男子）
「町の行政に関わる事務をしたいと考えているから。」（女子）
「安定した収入、辞めさせられにくく、地域に貢献できる。」（男子）
- 看護師： 「人を助けたいし、仕事が安定している。」（女子）
「妹が事故にあった時お世話になった看護師さんを見てカッコイイと思ったし興味がわきこの職業につきたいと思った。そして、世界中で苦しむ人達を助けたいから。」（女子）

※「公務員」は「公務員（国家・地方）」「公務員（警察・消防・自衛官）」の合算値

■奨学金制度についての認知状況をみると、保護者・高校生ともに、トップ3は種類（給付/貸与・有利子/無利子・大学独自/自治体）についてであった。一方、申込方法や利用条件などの具体的な制度の認知は進んでいない。

「利用してほしくない・したくない」と比べて2倍以上であった。

- ・保護者 「利用してほしい」 (52.1%) > 「利用してほしくない」 (24.1%)
- ・高校生 「利用したい」 (41.4%) > 「利用したくない」 (18.9%)

※1 進学希望者：大学進学/短大進学/専門学校進学計

9